

国語科 授業改善推進プラン

1 学力効果測定結果

- ・令和3年度は、第4学年、第5学年において、「主体的に学習に取り組む態度」の育成が特に十分ではなかった。
- ・第5学年、第6学年は全観点が目標値を下回っている。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」の育成は、「知識・技能」の育成を図ることを通して育成するものである。第4学年は、「知識・技能」の平均正答率は目標値を超えてはいるが十分とは言えず、進級するごとに目標値を下回る傾向がある。

2 児童の実態及び学習効果測定の結果分析（課題）

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなを書いたり読んだりすることができるが、長音、拗音、促音、撥音、助詞「はをへ」の表記が身に付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」が苦手な児童が多く、問題自体を理解することが困難なことがある。 ・集中できる時間が短いため、最後まで読み取ることが難しい。 ・漢字に興味があり、繰り返し練習することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読み、内容を理解することが苦手な児童が多い。音読が不十分である。 ・自分の考えを書いて表現する際には、短文になることが多く、文章の構成についての意識が薄い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主語、述語を意識しながら文章を書くことが苦手である。特に指示された長さの文章でまとめることを苦手としている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習漢字、新出漢字共に、文章の中でしっかりと正しく使いこなせていない。書けるものでも平仮名で書くことが多く、漢字の定着率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習漢字の読み書きが定着していない。 ・長文読解が苦手である。 ・情報と情報との関係について理解して、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることが苦手である。 ・文章全体の構成や書き表し方に着目して文章を整えることが難しい。
研究	<ul style="list-style-type: none"> ・音読と視写を通して、書かれていることの概要を捉えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えをもつ前に、読むことや理解することを諦めてしまうことがある。まずは読みきることに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容理解の前提として、文字を言葉のまとまりとして正しく認識できるように、音読と視写に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語や説明文等の内容をより深く理解するために、音読と視写に重点的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先行学習で、全文視写に取り組むことにより、教材の大まかな内容を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全文視写で、教材の内容の大体を捉えられるようにする。 ・分からない言葉は国語辞典で調べることによって語彙力を高める。

3 課題や授業の改善策

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・文字や助詞の表記、改行などを正しく文中で使うことができるように、「かくってたのしいね」などを活用して、書く機会を増やす。 ・関連図書の活用や読み聞かせを通して、読書の幅を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の反復練習の工夫 ・助詞・句読点・かぎ「」の正しい使い方に教科を横断しながら、触れる機会を増やす。 ・読んだり書いたりする機会を増やし、活用する有効性を体験させる。(書写ワーク・書くって楽しいな等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を書いたり、自分の考えを話したりする場面では、言語による表現に慣れるように、文型・話型を示し、それに沿って表現するように助言する。 ・文章の中で主述を意識しやすいように、色でマーキングするなど視覚的に認識できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語を意識しながら文を書く練習をする。週末の家庭学習で指定された文字数で出来事や自分の気持ちを書く練習に取り組む。 ・新出漢字の練習の際には、漢字ドリルにある文章を視写するだけでなく、自分自身で文章を考えて書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習漢字・新出漢字の定着のため、再テストなど、反復練習に取り組む。 ・語彙が少ないことから、読書や新聞など活字を読む機会を増やす。 ・文章を作る時に、話型を提示するなどして、構成を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の漢字を使って文を書くことを徹底する。 ・漢字テスト後に再テストを行い、定着力を上げる。
判断・表現 思考・	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合う機会を設けて、互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数での活動を取り入れ、児童間での学び合いに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の中で重要な語や文を考えて選び出すことができるように、デジタル教科書を活用し全体で本文を確認しながら進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア活動やグループ活動を取り入れて、お互いの考えが可視化できるようにする。その際には、タブレットパソコン等を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動を通して、様々な考え・表現を知り、学習の幅を広げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習で長文読解の演習を行い、筆者の主張や文章構成を捉える機会を増やす。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文の挿絵や説明文に出てくる物の写真や実物を提示して関心を高めさせる。 ・単元のめあてを示すことで、学習の要点を意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自分を肯定的に捉えることができるように、スモールステップでの評価等で自信がもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手意識をもって主体的に表現活動ができるように、表現活動の際には目的と相手を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の始めに漢字ミニテストを繰り返すことにより、学習内容が確実に定着できるようにする。経験を積み重ねていくことで、児童の自信を高めていけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年になり、長文が増えて内容を捉えるのに、時間がかかってしまうが文章の面白さを捉えて学習に取り組ませていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み書きや語彙の地盤を高めることで、言葉がもつよさを認識させるとともに、それぞれが感じた思いや考えを受容しやすい雰囲気をつくっていく。

※太枠内は、重視する内容